

27P-pm200

Malassezia furfur および *Malassezia pachydermatis* 細胞壁ガラクトマンナンの解析
○柴田 信之¹, 田所 ゆかり¹, 斎藤 智美¹, 大川 喜男¹ (¹東北薬大・感染生体防
御)

【目的】*Malassezia* 属菌はヒトや動物の皮膚に常在する酵母であり、癬風、マラセチア毛包炎、マラセチア敗血症などを引き起こすことが知られている。また症脂漏性皮膚炎、アトピー性皮膚炎との関連も指摘されている。この *Malassezia* 感染症を検出するための特異的な抗原の存在を調べるため、細胞壁表層多糖を分離してNMRによる構造解析、各種抗体との反応性解析を行った。

【方法】*M. furfur* および *M. pachydermatis* の菌体より120°C、2時間の熱水抽出、または培養上清より得た細胞壁多糖について、DEAE-Sepharose クロマトグラフィーにより分画した。糖鎖構造解析は¹Hおよび¹³C-NMRスペクトル分析により行った。

【結果及び考察】*M. furfur* および *M. pachydermatis* 菌体のFACS解析の結果、抗 α -1,2-mannose 抗体とは反応せず、抗 β -1,3-glucan抗体、およびFITC-stearoyl dextranと反応したことから、菌体表層は一部 β -glucan層が露出しており、*Candida* 菌体のマンナン層のような親水性の多糖で覆われていないことを示している。細胞壁多糖のNMR解析の結果、主に β -1,6結合ガラクトフラノースから成る直鎖構造であった。これは *Aspergillus* や *Trichophyton* のガラクトマンナンと異なる構造であり、特異的な抗原性を持つことが明らかになった。